

令和2年度第2回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和2年10月7日（水）午後2時から午後3時20分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長（司会）、地域支援係長、担当主事（1名）
場所	瀬戸市役所北庁舎4階 庁議室
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の確認 ・ 欠席者の確認 <p>2 議事</p> <p>(1) 令和2年度生活支援コーディネーター活動報告</p> <p>【資料1】「活動計画 案」を基に事務局から説明。 〈説明内容〉</p> <p>令和2年度の進捗状況と、活動から見えた課題について報告。</p> <p>①瀬戸市全域（第1層）：居場所の周知と同時に、地域の活動について、MAP化するため聞き取りを行っている（ささえあいMAP）。また、居場所参加者からの聞き取りの結果、コロナ禍で外出機会が減少する中、体力の不調や詐欺に引っ掛かりそうになったなど、出かけることが大切だと気付いたという声が多くあった。コロナ禍でも安心して居場所等を実施するために、ガイドラインの作成・配布を行っている。</p> <p>今後は、新しい生活様式を取り入れながら参加することの難しさの解消と、様々な媒体を活用した相談先の周知が課題。</p> <p>②ふたば（第2層）：コロナ禍で居場所が実施していない期間は、近所の喫茶店で集まる人が多く、高齢者の買い物やサロン以外の居場所の必要性を認識した。</p> <p>今後は、民生委員等からの聞き取り調査で判明した、高齢者の住む築年数の古いマンションにスポットを当て、聞き取り調査を行う。</p> <p>③しなの（第2層）：買い物ができる店舗が少ないことや公共交通機関が充足していないため、買い物や移動が問題となっている。また、免許返納後の今後の生活に不安を抱える方が多い。</p> <p>尾張旭市で買い物支援事業を行っている尾張東部流通センター(株)と連携しながら、試験的に買い物支援を行っていけるか検討する。</p> <p>④中央東（第2層）：居場所の実施者は、新しい生活様式を取り入れ、各場所で工夫しながら実施している。参加者は居場所に参加することで、健康管理を行ったり、実施者は運営しながら、近隣高齢の自然な見守りができている。</p> <p>一人暮らしの人は、周囲の人が気づいたときにはすでに認知症等重症化しているケースが多く、孤独化を防ぐことや地域での支援方法今後検討していきたい。</p>

〈質疑応答〉

〔瀬戸市シルバー人材センター〕から質問。

- ・ 独居高齢者だけではなく、独居でなくても孤立している（家に居場所がない）高齢者へのアプローチをシルバー人材センターとしても検討している。生活支援コーディネーターで、独居でなくても孤立している高齢者は把握しているか。

〔第1層生活支援コーディネーター〕から回答。

- ・ 独居でなくても、孤立している高齢者の方もいる。独居の人も、そうではない人も一緒に考える必要がある。

〔瀬戸市シルバー人材センター〕からの意見。

- ・ 孤立した人が社会から疎外されないように、シルバー人材センターとしても動いていきたい。

〔事務局〕からの意見。

- ・ シルバー人材センターで仕事をするのが居場所になる。今後、生活支援コーディネーターと連携して会員募集を各地域で行い、高齢者の就労につなげることができるのではないかと。8期計画にも連携の内容など入れていきたい。

(2) 令和2年度瀬戸市施策の現状報告

【資料2】を基に事務局から説明。

計画からの進捗状況と、今後の方向性について説明。(①～③)

8期計画について説明。(④)

- ①居場所：コロナウイルス感染拡大防止のため休止していた事業が順次再開しており、せとらカフェでは、今後認知症サポーターと連携しながら、認知症の当事者の活躍の場を推進していくための仕組み作りを行う。

居場所について、広報等で積極的に周知しているが、十分な周知に繋がっておらず、今後は様々な媒体を活用してさらなる周知に努める。

- ②移動：瀬戸市高齢者移動支援検討会議にて、実施方法・地域について検討しており、事業所との連携やデイサービスの空いているバス等の活用など、今まで目を向けられなかった既存の資源の活用も検討しながら、実証実験に向け仕組み作りを行っていく。

- ③担い手：元気高齢者サポーター養成講座について、介護現場で軽易な仕事を担える人材の育成を予定しており、今後は実施内容等を検知し、年度内に実施を予定している。

また、チームオレンジでは、認知症当事者と認知症サポーターのマッチングを行い、当事者のやりたいこと、できることの実現のために支援していく。

- ④8期計画について：協議体で議論された意見を8期計画に反映していきたい。事務局で内容を検討した後、各委員へ書類を郵送する予定。

〈質疑応答〉

[瀬戸市シルバー人材センター] からの質問。

- ・ 担い手・元気高齢者サポーター養成講座の「軽易な仕事」とはどのような仕事か。

[事務局] からの回答。

- ・ 介護の資格がなくてもできる仕事。

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ 施設などの利用者は、日常接していない人と接することで、混乱してしまい、担い手となるサポーターの不利益になることはないか。シルバー人材センターとしても実施を検討しているが、リスクが心配。

[事務局]

- ・ リスクの完全な払しょくは難しいかもしれないが、本人と会わない等、記憶に残らないような仕事を担っていただくことで軽減できると考えられる。

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ 今後、実施していく場合、現場のことが心配。

[事務局]

- ・ サポーターには、事前に施設に実習に行ってもらい、施設からの要望があれば採用となる。深刻な介護現場の人材不足の穴埋めとなればと考えている。

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ 施設実習も必要だが、コロナ禍の中では難しいのではないか。

[事務局]

- ・ 実習は現場となる施設で行う予定だが、今後状況によってはできなくなる可能性もある。

[副委員長]

- ・ 普段と違う人の出入りがあることで施設などの利用者の刺激になったり、介護職の時間が確保されることで質の良い介護につながる。

[事務局] 瀬戸地域福祉を考える会まごころからの意見を代読。

- ・ 認知症サポーター養成講座を受講していただいた方が、ステップアップのため受講できる認知症ステップアップ研修について。現在、認知症ステップアップ研修は、社会福祉協議会の基幹型地域包括支援センターが講師となり開催している。しかし、場所や日程の関係から参加できない受講希望者もいるため、様々な地域でステップアップ研修を受けられないかという意見をいただいた。

本市といたしましても、現状は開催できていないが、様々な地域で受講いただけるような体制を作り、認知症ステップアップ研修を受講した方には、チームオレンジの担い手として活動していただきたいと考えている。

(3) 今年度の課題

[委員長]

- ・ 居場所・移動・担い手の3つの課題に基づいて話を進めてきたが、今年度の課題は昨年度の課題と大きく変わることはないと考えられる。「つながり」という視点を重視し、この3つの課題を軸に据えながら、今年度協議体で課題として取り上げて進めていく必要がある他の課題等、具体的な意見をいただきたい。

[地区社協会長連絡会]

- ・ 独居高齢を無くす（二世帯、三世帯で住む）施策は現在行われていませんが、そういう考え方もあると感じた。

[事務局]

- ・ 高齢者施策だけで考えると難しいが、若い世代の定住促進と絡めて考えることで、二世帯は難しくても比較的高齢者宅に近いところで住んでももらえることもあるかもしれない。そのような視点でも考えていきたい。

[委員長]

- ・ 茨城県の日立市では、高度経済成長期に中心部から離れた郊外に住宅が多くできたが、現在高齢化が進み、中心部への高齢者の住み替えが行われた。その結果、各世代が近くに住むことで、孤独感がなくなったという前例がある。住宅政策は長い目で見て考えていくことが必要。

[地区社協会長連絡会]

- ・ 医療施設やコミュニティのある高齢者のみが暮らすマンションの構想があると助かる。居場所がない一人暮らし、瀬戸から離れたくない人もいる。

[委員長]

- ・ 住み慣れた地域で暮らし続けるために、市として、実現するための施策をあげること大切。「つながり」と密接にかかわってくる。

[事務局]

- ・ 研究課題として興味のある問題。情報収集に努める。

[委員長]

- ・ 担い手・居場所・移動の課題地域差もあるが、キメの細かい施策を課題として協議体で検討していく。

3 その他

- ・ 事務局より来年度の会議と8期計画についての案内。

〈説明内容〉

次の会議は来年の2月を予定している。また、8期の計画については、改めて各委員へ資料を送付する。

	4 閉会
--	------